

意見陳述書

令和2年3月8日

東京地方裁判所民事第2部裁判官 殿

原告 武本匡弘

1. 私は、神奈川県葉山町に自宅があり、プロダイバーとして約 30 数年間、海を職場とし、海と向き合う中で海洋環境の悪化、劇的な変容を目にして来ました。現在「気候変動、海洋プラスチック問題」等に関する講演活動、セミナー開催環境授業学校授業、環境NPO団体技術顧問等をしています。また現在、生物多様性に富む海よりも、死に向かっている海の方が多いという現実があり、このような現状を少しでも変えたいという思いから、藤沢駅前にて日本初のプラスチックフリーのショップ「エコストアパラギ」を経営しております。

2015 年より「気候変動・海洋汚染」の探查等を目的に毎年、帆船(ヨット)で太平洋、主にミクロネシア海域を航海するプロジェクトを始め、そこでは危機的な気候の変化を体感しています。

2. 航海中、毎日計測する水温計では、異常に高い海水温を示し、巨大積乱雲や海上竜巻の発生頻度を高め、日本列島に集中豪雨や台風の巨大化をもたらしています。

航海中は、ミクロネシアの国々、マーシャル諸島共和国、ミクロネシア連邦、パラオ共和国などを訪れています。マーシャル諸島共和国やパラオ共和国の大統領とも会談していますが、必ず気候変動のことが話題になります。南太平洋の国々では、海面上昇や高潮による被害が非常に大きくなっているためです。

また、訪れる島々の人たちは普通の人たちもみな、私たち日本人をみると皆口をそろえて「気候変動をどう思うか？」と聞いてきます。彼らは、とにかく「風が変わった」、と言います。北緯 25 度以南の太平洋では、「北東貿易風」が安定的に吹いているのですが、この風向が微妙に変わってきているというのです。更には、海水面の上昇で寝食された海岸、高波で流された建物や墓地まで、そこには島民の命と生活を脅かす危機的な状況があるのです。

3. 特に最近顕著に変わってきていることとして、水温が高くなっていることがありますが、その次に変わってきていることといえば、風の強さや向きです。北緯 25 度以南の北東貿易風はかなり変わっています。

また、自宅がある神奈川の三浦半島の南西側でも風の吹き方が変わってきています。この辺りはほとんどの海岸が南西方向に向いていますが、年間の最多風向は西北西で、これが今までと全く違うのです。特に一昨年(2019)の 12 月あたりは、北西風が全然吹かなくなりました。漁民もそうですが、レジャーの人もみな風を見て商売をしているので、皆が感じていることです。それはデータにも表れていますし、体感でもわかります。この冬も全然西風が吹きません。

葉山あたりでは、西風の強い日を「大西が吹く」と言い、これまでだと海岸を歩いていても、波の飛沫があたるくらいの強風でしたが、現在、相当頻度が少なくなっています。例えば、葉山には 820 年前に源頼朝が建てた森戸神社があり、南西方向側に向いていますが、その松林は強い西風にあおられて曲がってしまっています。今はそのように松の枝を曲げるような風は吹きません。

4. 海では磯枯れや磯焼けが広がっていて、一本も海藻がなくなってしまう、沙漠のようになっています。海藻が何もない中で岩の上のウニが目立ちますが、中身は

空っぽで食べられません。磯焼けは今、全国の海に広がっていて、特に相模湾は酷いのです。

葉山ではヒジキがとれなくなっています。逗子ではこれまで食べていなかったアカモクを逗子ブランドではじめました。アカモクは他の海藻とは違って繁殖力が強く、それを高級食材として売り出し、一時はとてもヒットしました。ただ、今はそのアカモクも育たなくなっています。現在、逗子で売っているのは千葉のものです。

その原因は、風向きが変わったことが大きいと思っています。風は気温によって動くので、それで風向きが変わり、さらに風が変わることで、また海が冷えなくなるという悪循環になっているように思います。三浦半島の西側や湘南あたりは北風が吹いても山にさえぎられて風が吹かず、波もたちません。逆にそのような北風だと東京湾は波が立つようになります。相模湾と東京湾の関係が真逆になっています。

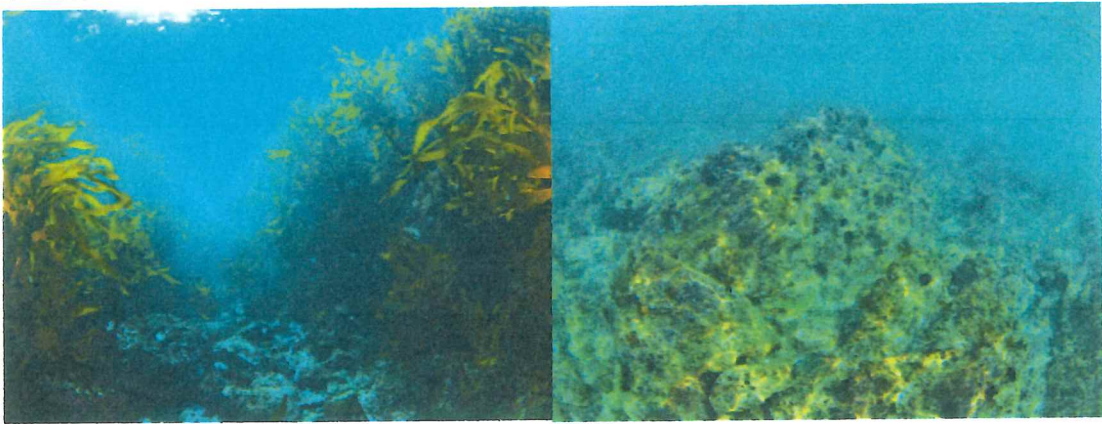
今の磯枯れはティッピングポイントと同じでもう止まらないと思います。

左:海藻の繁茂が水面から見えるほどの江の島の海(2012年2月撮影 水温13度)
右:しかし今は岩肌だけになった姿、海藻はない(2020年3月1日撮影 水温17度)



左:海藻の森は、葉山の海の象徴、竜宮城の入り口だ！(2014年3月水温14度)

右:海藻はなくなり、ガンガゼの異常繁殖した姿がむなしい(2020年3月1日水温18度)



5. 一方、最近の台風の巨大化などで、これまでにないような強風が吹くこともあります。私が住む葉山では、おとしの台風で風上側にアルミフェンスをつけていた家はほとんどすべての家でフェンスが飛んでしまいました。風向きに対して裏側にある家のフェンスは飛ばずに残っていました。私の家のフェンスは、風で飛ばされたときに危うく隣家の700万円のボルボにぶつかるところでした。近所では、屋根が飛び、パーキングの複数の車を壊していたところもありました。

このような暴風になることが多くなってきたことから、ソーラーパネルに関しては強風でも飛ばないように相当慎重に取り付けました。風向きに押されるように屋根に打ちつけて、風が隙間に入らないようにしています。飛んだフェンスはすべて土台から取り付け直しています。

6. 日本では海難事故が最も統計上少ない時期が11月で、その次に少ないのが6月です。11月は台風のシーズンが終わった頃で海が穏やかになり、12月からは低気圧の発生頻度が高くなります。海難事故が少ない時期にあわせて、私は調査航海

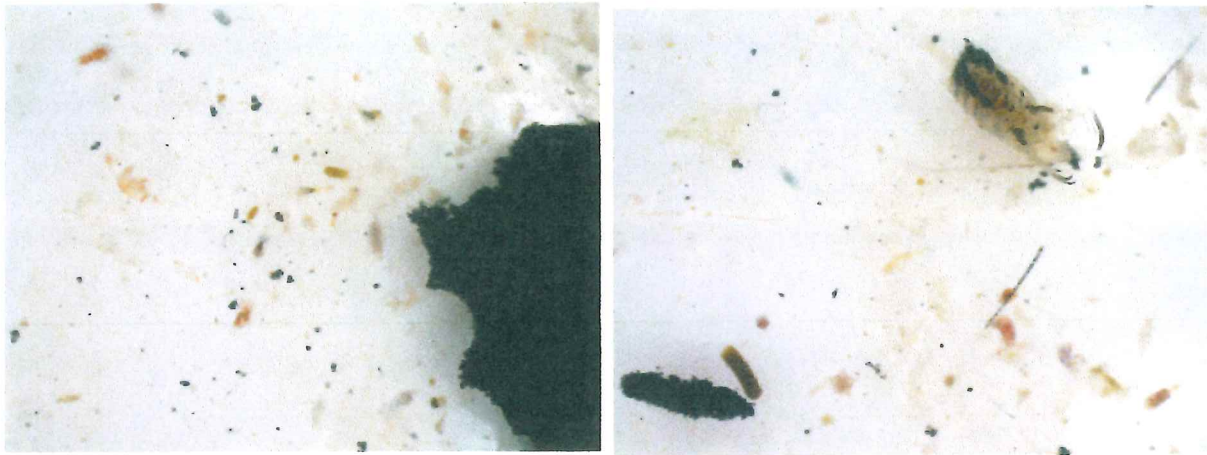
に出ていましたが、今は 11 月も要注意になってきています。これまでと同じようにはいきません。

また、初夏に関しては、6 月からすでに夏の気候になっており、台風の発生頻度も前倒しに広がってくる可能性があります。最近も、1 月の航海で、北緯 26 度近辺で、すでに 28℃の水温を記録しています。5 月の船で出る時期には、伊豆諸島沖で 30℃越えになっています。そのような状況で、特に 5 月から 6 月は海上竜巻の発生頻度が高くなっています。ただし、海上竜巻の公式な記録はありません。直近では、一度に 7 本の竜巻に囲まれ、過去最多でした。

このように、比較的海が安全な時期に気候の状態が変わってきているので、レジャーでヨットに乗る人に対しては、これまでと違う常識で航海しないといけないということを発信しています。

7. 最近、近隣海域で、プランクトンネットでマイクロプラスチックを採取していますが、相模湾の炭素ごみが増えているのが最近非常に気になっています。おそらく船舶から出てくる炭素ごみだと思いますが、分析していないので詳細はわかりません。しかし、原因は何にせよ今でさえすごい密度で炭素ごみが増えているのに、火力発電所が稼働したらこれがもっと増えることになるのではないかと思います。炭素ごみも、マイクロプラスチックと同様魚が食べます。プランクトンに吸着することもあり、それを魚が食べて、人間も食べることになるのです。

相模湾で採取した炭素ゴミとプランクトン(2018年7月 葉山沖にて、武本匡弘撮影)



8. 冒頭に述べたように、太平洋の島で暮らしているごくごく一般の人の声に真実があると思って話を聞き続けています。彼らが投げかけてくる「気候変動をどう思っているのか?」という質問の意味は、「お前の国が出しているガス(CO₂)が原因なんだぞ!」と言いたかったのではないかと考えてしょうがありません。

現実には、まさにその通りで、大国と言われる国々が排出する「温暖化効果ガス」によって、圧倒的多数の「CO₂排出に責任を負わない国々」に暮らす人々がその影響を受け、“つけ”を払わせられているのです。日本で起きている近年の自然災害は「異常気象」が常態化している「気候危機」事態であるという認識が必要です。

同時に、はるか南の国々でほとんど援助も受けられず苦しんでいる人達に思いをはせること、その責任は少なからず私達の過剰な消費生活からくるものであるという事も深く心に留めておくべきと思います。

9. 令和元年9月、海水温の上昇で急速に失われていくサンゴ礁の姿を追った映画(題名「チェイシング・コーラル」)を鑑賞して、自分たちができることを話し合うイベントが開催され、私は、サンゴ礁が年々変化してきている状況をお話するため、ゲストスピーカーとして参加しました(9月5日に日比谷公園内にある日比谷図書文化館で、9

月10日に逗子市内にある逗子文化プラザでそれぞれ参加しました。)

その際に、イベントに参加されていた、本件訴訟に先行して提起されている同趣旨の訴訟（令和元年（行ウ）第275号、東京地方裁判所民事第2部Cd係係属）の原告の方から、その訴訟の概要を聞き、横須賀石炭火力発電所計画の編集住民のみなさんが環境影響評価書の確定通知に対して取消訴訟をしているということを知りました。

私は、気候変動により美しい海が変わっていつてしまうことにとても心を痛めており、ましてや、自分の住んでいる近くで、気候変動の原因となる大量の二酸化炭素を排出する石炭火力発電所を建設させることはやめさせなければならないと思い、今回訴訟を提起することにしました。

以上

洋上竜巻が発生したときの写真。7つ同時に竜巻が発生
(2018年5月 房総半島沖にて、武本匡弘撮影)



近海である伊豆諸島海域でも、高い海水温が、水蒸気を生み、巨大積乱雲(スーパーセル)やこのような海上竜巻を発生させる。